

日時：2012年12月22日(土) 13:30～19:00

場所：立教大学新座キャンパス6号館 N636教室(ロフト2)

ドゥルーズ・知覚・身体

情報資本主義、管理社会、生政治に取り囲まれたわれわれの身体、
知覚に何が起きているのか、ジル・ドゥルーズの思索を掘り起こしながら考える

発表者

江川 隆男 (哲学者・首都大学東京 助教)

1958年生。著書に『存在と差異—ドゥルーズの超越論的経験論』(知泉書館, 2003), 『死の哲学』(河出書房新社, 2005), 訳書にジル・ドゥルーズ『ニーチェと哲学』(河出文庫, 2008)がある。来年2013年2月に新刊予定。

佐々木 中 (法政大学 非常勤講師)

1973年生。著作に『定本 夜戦と永遠』上・下(改訂増補 文庫版, 河出書房新社, 2011), 『切りとれ、あの祈る手を』(河出書房新社, 2010)等がある。

廣瀬 純 (龍谷大学 経営学部経営学科 准教授)

1971年生。著書に『シネ・キャピタル』(洛北出版, 2009), 『蜂起とともに愛がはじまる—思想/政治のための32章』(河出書房新社, 2012), 訳書にアントニオ・ネグリ『未来派左翼』(NHK ブックス, 2008)等がある。

堀 千晶 (早稲田大学 非常勤講師)

1981年生。共著に『ドゥルーズ キーワード89』(せりか書房, 2008年), 『ドゥルーズ 千の文学』(せりか書房, 2011)がある。訳書にセルジュ・マルジェル『欺瞞について』(水声社, 近刊)等がある。

松本 潤一郎 (立教大学 兼任講師)

1974年生。共著に『ドゥルーズ—生成変化のサブマリン』(白水社, 2005), 『ドゥルーズ/ガタリの現在』(平凡社, 2008年), 『ドゥルーズ 千の文学』(せりか書房, 2011年) 訳著にピーター・ホルワード『ドゥルーズと創造の哲学 この世界を抜け出て』(青土社, 2010)等がある。

司会

宇野邦一 (立教大学 現代心理学部映像身体学科 教授)

1948年生。著書に『ドゥルーズ 群れと結晶』(河出書房新社, 2012), 『アメリカ、ヘテロトピア』(以文社, 近刊), 訳書にドゥルーズ/ガタリ『アンチ・オイディプス』(河出文庫, 2006), ジャン・ジュネ『判決』(みすず書房, 2012)等がある。

哲学者ジル・ドゥルーズ（1925-1995）は、数々の著書の中で、行動的図式に收拾されない潜在的な知覚・身体のあり方を問題化し概念化していた。このシンポジウムでは、『感覚の論理学』に示唆されたような触覚的視覚、そして『シネマ・時間イメージ』から『消尽したもの』にいたってますます明らかになる視覚と聴覚の断裂・非統合とともにある創造という問題系を一つの焦点にしたい。ガタリとの共著にもしばしば現れる「知覚しがたいもの」、「器官なき身体」をめぐる身体論もまた同じ問題系のなかにあって、現代社会に生きる身体の状態と、それに敏感に反応する芸術表現を考えるうえで、多くの貴重な示唆を残したのである。このような問題系において改めてドゥルーズを解読し、これを起点として、身体、知覚、芸術表現を新たな文脈で再考しようとする。

プログラム

13h30-14h00	問題提起／宇野邦一
第1部	（司会：堀千晶）
14h00-14h30	報告／松本潤一郎：また消えるために——幾つもの召命
14h30-15h00	報告／江川隆男：器官なき身体と超越的感性について
15h00-15h30	質疑応答
15h30-15h45	休憩
第2部	（司会：松本潤一郎）
15h45-16h15	報告／廣瀬純：未定
16h15-16h45	報告／堀千晶：無知の砂漠——皮膚・補綴・ダンス
16h45-17h15	報告／佐々木中：ジル・ドゥルーズにおける身体と政治 ——その美的決定（ドグマティック）
7h15-17h45	質疑応答
17h45-18h00	休憩
第3部	（司会：宇野邦一）
18h00-19h00	質疑応答

お問い合わせ：心理芸術人文学研究所 TEL 048-471-7251／現代心理学部事務室 TEL 048-471-7149

このシンポジウムは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 研究プロジェクト「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」（平成23年～平成27年度）の一環として行われます。